

2025 年度

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻
博士前期(修士)課程

一 般 ・ 留 学 生
学 生 募 集 要 項
(2 次)



大阪医科薬科大学

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻博士前期（修士）課程

大学の理念

建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をと
おして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

大学の目的

大学の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

1. 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材
2. 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材
3. 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

大学院の目的

医学、薬学及び看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の発展に寄与することを目的とする。

博士前期課程の目的

薬科学領域における先端的な研究及び知識・技能の教授を通じて、優れた国際的視野を持つ研究能力を備えた研究者・技術者となることのできる人材を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

4年制学部（薬学・農学・工学・理学部など）を基礎とする博士前期課程であり、大阪医科薬科大学の理念を理解し、本大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の人材養成の目的に応えられ、柔軟な思考力と豊かな創造性を有する次のような学生を求めています。

- ・生命科学や創薬科学に関連する薬科学領域において、先端的な研究技能、知識及び倫理観を修得し、国際的視野を持つ研究者・技術者として活躍することに強い意欲を持つ者。

なお、外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者も募集対象とします。

また、入学者は、「外国語（英語）」「記述問題（専門課題）」「面接」「発表・口頭試問」により評価・判定の上、選抜します。

カリキュラム・ポリシー

薬科学専攻博士前期課程（修士課程）において、学生は 3 つの研究領域（分子構造・機能解析学領域、創薬化学領域、生命・環境科学領域）のいずれかに所属し、主として所属研究室の指導教員により研究・教育指導を受けることとしており、次のような方針でカリキュラムを編成し、実施しています。

1. 基礎薬学の知識の上に立ち、さらに深い専門的学識と倫理観を体得し、専門分野における応用力を向上・充実させます。
2. 講義科目は選択制を基本とし、学生の自主性や専門性に配慮します。
3. 問題解決能力や研究の国際交流上必要なコミュニケーション能力を養成するため、演習（特別演習）及び特別研究を配置します。

上記のように編成した教育課程では各科目の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学習、オンライン教育、LMS（Learning Management System）などを活用した学修を実践します。

ディプロマ・ポリシー

薬学研究科薬科学専攻博士前期課程の学位授与の要件は、所定の期間在学し、修士課程の教育・研究の理念に沿った教育・研究指導を受け、修士論文の審査、試験に合格し、修士課程を修了することです。授与する学位は「修士（薬科学）」とし、審査にあたり、

- ・広く高度で知的な素養と幅広く深い学問的知識を身に付け、柔軟な応用力を備えた研究能力、倫理観、さらには国際的視野を持つこと。
- を学位授与の基準とします。

大阪医科薬科大学大学院・薬学研究科薬科学専攻博士前期課程（修士）課程学生募集要項

1. 募集人員 薬科学専攻 5 名

2. 募集専攻領域

専 攻	専攻領域
薬科学専攻	分子構造・機能解析学 創薬化学 生命・環境科学

3. 出願資格（次の各号の一つに該当するもの）

- 1) 大学の 4 年制課程を卒業した者、又は 2025 年 3 月卒業見込みの者
- 2) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 3) 文部科学大臣の指定した者
- 4) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

注)外国人留学生（日本国籍を有しない者のうち日本国の永住許可を取得していない者）のうち私費外国人留学生は、上記の出願資格を有し、入学後に「出入国管理及び難民認定法」による「留学」の在留資格を取得又は更新できることを条件とします。

4. 出願期間及び方法

- 1) 期 間：2024 年 10 月 4 日（金）～ 10 月 11 日（金）
- 2) 薬学学務部教務課へ持参する場合：受付時間 平日午前 9 時～午後 4 時 30 分
- 3) 郵送の場合：簡易書留・速達郵便として、薬学学務部教務課に郵送してください。出願期間中の消印のあるものののみ受け付けます。また封筒の表に「博士前期課程願書在中」と朱書してください。

5. 出願方法

入学志願者は、下記の書類に入学検定料 20,000 円を添え、出願期間中に本学に提出してください（本学卒業生は免除）。郵便で提出する場合、入学検定料は郵便為替証書（手数料志願者負担）を同封してください。また、銀行振込の場合も手数料本人負担となります。

1) 入学願書

本学所定の用紙を用い、出願前 3 か月以内に撮影した写真を 1 枚貼付したもの

2) 卒業証明書^{※1}又は卒業見込証明書^{※1}

出身大学において作成の上、厳封したもの

3) 成績証明書^{※1}

出身大学において作成の上、厳封したもの

4) 志望理由書^{※1}

本学所定の用紙に記入したもの、1,000 字以内、又は英語 250 語以内

5) 卒業研究の要旨

本学所定の用紙に記入したもの、500 字程度、又は英語 150 語程度

6) 返信用封筒（定形封筒・長形 3 号）

出願書類を郵送した場合のみ必要。受験票送付用として、宛名を明記し、344 円切手を貼付したもの

7) 卒業研究プレゼンテーション用データ

Microsoft Powerpoint ファイル（USBメモリ等に保存）は、試験当日午前 10 時までに薬学学務部教務課へ提出してください。

8) 事前相談

入学を希望する研究室の責任者（指導教員）と事前に相談し了承を得てください。

※1 他大学出身者のみ提出

外国人留学生は、1) から 8) までの項目に加え、以下のものを提出してください。

9) 在留資格認定証明書又は住民票（在留資格及び在留期間が記載されたもの）、なお日本国外からの出願の場合はパスポートの写し

10) 身元保証書※2（保証人は日本在住で独立生計の成人の方とします）

11) 健康診断書

12) 推薦書

13) 履歴書

※2 私費留学生のみ提出

6. 選考方法

学力試験※3、面接及び提出書類により合格者を決定します。

※3 国費留学生の場合は学力試験を免除することがあります。

7. 学力試験

1) 期日：2024 年 10 月 28 日（月）

2) 場所：大阪医科薬科大学阿武山キャンパス（高槻市奈佐原4-20-1）

3) 時間割

10：00～12：00	外国語（英語）※4：専攻 3 領域から出題すべて解答
13：00～14：30	記述問題（専門課題）：専攻 3 領域 3 題から 1 題選択※5
15：00～	発表・口頭試問：卒業研究プレゼンテーション用データに基づいて発表※6

発表・口頭試問の終了後に面接を実施します。時間割は変更することがあります。

※4 ①外国人留学生が、発表（プレゼンテーション）を英語で行う場合は、外国語科目を免除することがあります。

②辞書（電子、専門辞書を除く）の持ち込みは可能です。

※5 記述問題（専門課題）は英語での出題及び解答が可能です。希望する場合は出願時に申し出てください。

※6 卒業研究制度がない大学の出身者は、「大学院進学の目的と研究に対する抱負」について発表を行ってください。

8. 合格者発表

2024 年 11 月 11 日（月）大阪医科薬科大学阿武山キャンパスにおいて発表し、また受験者には書面で合否を通知します。

9. 入学手続

入学手続に関しての詳細は、合格者に別途通知します。この通知に記載した手続を行った者に対して、入学を許可します。

入学手続締切日：1 次（入学金、書類）2024 年 12 月 13 日（金）

2 次（前期授業料） 2025 年 3 月 10 日（月）

10. 納付金

1) 入学金 100,000 円（本学卒業生は免除）

2) 授業料 500,000 円（年額）

その他、代理徴収金（薬学部 PA 会費）として 18,000 円（年額）を納入してください。

11. ティーチング・アシスタント（T.A）制度

本課程在学学生は、希望によりティーチング・アシスタント（T.A）に委嘱され、報酬を得ることができます。

12. その他

1) 一度提出した書類及び納付金は返却しません。

2) 入学に際し虚偽の記載などの事実があった場合、入学許可を取り消すことがあります。

3) 受験や修学にあたって特別な措置を希望する者は、事前に薬学学務部教務課に問い合わせてください。

4) 志願者は必ず出願前に、志望する研究室の担当指導教員に研究内容等について相談してください。

入試に関する問い合わせ先

大阪医科薬科大学 薬学学務部教務課

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原 4 丁目20番 1 号

電話 (072) 690-1000（代表）

(072) 690-1013（直通）

ホームページアドレス

<https://www.ompu.ac.jp>

募集研究室一覧

領域	(研究室) 指導教員	研究内容
分子構造・機能解析学領域	(生化学研究室) ★ 教授 福永 理己郎 講師 藤井 忍 (薬品物理化学研究室) 准教授 友尾 幸司 ★ 准教授 尹 康子 (生体機能解析学研究室) 教授 奥田 洋明	- リン脂質加水分解酵素の酵素機能の分子論 - 組換えビブリオ菌イソコリスミ酸合成酵素とイソコリスミ酸ピルビン酸リアーゼの大腸菌による発現と精製 - タンパク質生成開始因子の構造機能解析 - アルツハイマー型認知症関連タンパク質tauの自己重合機構の解明と重合阻害分子の開発 - 放線菌におけるキシロオリゴ糖細胞内輸送機構の解明 - 病原微生物における鉄輸送機構の解明と新規抗菌薬の開発 - 慢性痛の発症機序の解明と新規治療法の開発 - 植物由来生理活性物質による抗炎症機序の解明 - グリア細胞の機能的多様性の解明 - 細胞増殖阻害薬の作用メカニズムの解明と細胞の増殖・分化・死の機構解明
創薬化学領域	(医薬分子化学研究室) 教授 平野 智也 准教授 山田 剛司 (有機薬化学研究室) 教授 宇佐美 吉英 講師 米山 弘樹 (機能分子創製化学研究室) 准教授 和田 俊一 (生薬科学研究室) 教授 谷口 雅彦 (分子構造化学研究室) 准教授 浅野 晶子	- 医療への応用を志向した光機能分子の開発 - エピジェネティクス、エピトランスクリプトームを制御、解析する分子の開発 - 海洋生物由来菌類の産生する代謝物からの抗腫瘍性物質のシーズ探索研究 - 創薬を目的とした天然物の生理活性及び活性機構に関する研究 - 生体防御と抗老化作用を有する化合物の創薬研究 - カルバシュガー型天然物及びその類縁体の合成と生理活性に関する研究 - 新規複素環化合物の合成研究 - Vanin-1 阻害剤のデザインと合成 - 細胞内移送能を有するキャリアペプチドの開発 - 細胞膜透過性ペプチドの核酸医薬細胞内デリバリーツールとしての応用 - がん細胞を可視化するペプチド性イメージング分子の開発 - 各種生薬成分の構造解析と生理活性に関する研究 - サプリメントの有用性に関する研究 - エピゲノム及びタンパク質間相互作用を制御する生薬成分の探索 - ペプチドのコンホーメーションコントロールに関する研究 - 非天然型アミノ酸を用いた膜透過性ペプチドの開発 - 機能性ペプチドの構造解析とデザイン
生命・環境科学領域	(衛生化学研究室) 教授 奥平 桂一郎 講師 東 剛志 (感染防御学研究室) 教授 駒野 淳 准教授 宮本 勝城 (病態生化学研究室) 教授 藤森 功 (病態分子薬理研究室) 教授 大喜多 守 准教授 田和 正志	- 動脈硬化関連因子の機能と生理的意義に関する研究 - がん治療を指向した製剤開発に関する研究 - 核酸による遺伝子発現制御機構に関する研究 - 生活習慣病を誘発する肥満の分子機構に関する研究 - 脳血管内皮細胞のtight junction の分子機構に関する研究 - 医薬品による環境汚染の動態に関する研究 - 感染症に対する新たな治療戦略の開発研究 - 宿主-病原体相互作用の解析を通じた病原性発揮メカニズムの解明 - 脂質メディエーターの機能と制御機構に関する研究 - 肥満制御の分子機構に関する研究 - 細胞増殖および分化制御に関する研究 - 天然物由来成分による脂質代謝調節機構に関する研究 - エンドセリン及び一酸化窒素の病態生理学的役割に関する研究 - 急性腎障害や慢性腎臓病に対する薬効評価及びその作用機序に関する研究 - 可溶性グアニル酸シクラーゼを標的とした創薬に関する研究 - 各種循環器疾患に対する新規治療薬の開発研究 - 各種機能性食品の薬理学的研究

領域	(研究室) 指導教員	研究内容
生命・環境科学領域	前頁から続く	
	(薬品作用解析学研究室) ★ 教授 大野 行弘 准教授 清水 佐紀	・ 中枢ドーパミン及びセロトニン神経系の機能解析 ・ 精神神経疾患（統合失調症、うつ病、パーキンソン病、てんかん等）の病態研究 ・ 中枢神経作用薬の薬理研究
	(薬物治療学Ⅰ研究室) 教 授 加藤 隆児 准教授 幸田 祐佳	・ 重篤副作用（肝障害、肺障害、腎障害、心筋障害等）発症機構の解明と予測マーカーの探索 ・ 酸化ストレス関連疾患の病態解明と予防法に関する研究 ・ 在宅医療における薬物血中濃度モニタリング（TDM）の臨床的有用性に関する研究
	(薬物治療学Ⅱ研究室) 教 授 福森 亮雄 講 師 山口 敬子	・ 認知症の病態と医療応用 ・ 自己免疫性脳炎の病態と医療応用 ・ 非天然アミノ酸の遺伝的取り込みを用いる孤児受容体リガンドの同定 ・ CRISPR/Cas9を用いる遺伝子改変生物の作成とその病態解析への応用 ・ 有機試薬の合成とその構造解析並びに分析化学への応用 ・ バイオマーカーの分光学的測定法の開発 ・ 生理活性作用を有する金属錯体の創製
	(生体分析学研究室) 教 授 天満 敬	・ PET・SPECT 画像診断用放射性医薬品の開発に関する研究 ・ MRI・光イメージングのための分子プローブ開発に関する研究 ・ がんの早期質的診断並びに治療効果判定に関する分子イメージング研究 ・ 中性子捕捉療法によるがんの治療のための薬剤開発研究 ・ 病態モデル動物を用いた各種疾患の診断・治療法開発に関する研究
	(薬剤学研究室) 教 授 永井 純也 准教授 本橋 秀之	・ 生活習慣病に伴う薬物トランスポーターの機能・発現変動とその変動要因解析 ・ 抗がん剤の経細胞膜輸送特性と薬効・毒性発現との関連性に関する研究 ・ 細胞医薬品の新規開発に向けた生物薬剤学的研究
	(製剤設計学研究室) 教 授 戸塚 裕一 講 師 内山 博雅	・ 難水溶性医薬品の新規可溶化技術に関する研究 ・ 経肺投与・吸入用の微粒子調製に関する研究 ・ メカノケミストリーを用いた機能性粒子調製に関する研究 ・ 自己乳化型製剤調製に関する研究
	(臨床漢方薬学研究室) 教 授 芝野 真喜雄	・ 滋陰生薬の老化細胞に対する抗炎症作用に関する研究 ・ 漢方生薬の修治・炮製の科学的解明に関する研究 ・ 漢方薬の副作用防止に関する研究

志願者は、出願前に志望する研究室の責任者に研究内容等について相談しておくこと。

★を付した教員は、修了までに定年又は退職となる。